



自由の声

慈悲の精神
欠ける日本

神崎みき子

(山南町、72歳)

やまなみ高齢者大学で、「慈悲と共生」と題した講話を聞きました。講師は、インド禅定林住職のサンガラトナ法天マナケ氏です。

氏は1962年に中部インドナグプールにお生まれになりました。一人っ子でしたが、9歳のときに来日され、比叡山延暦寺で15年間、厳しい修業を積まれたそうです。でも、辛かったことや苦勞したことなどはおくびにも出さず、淡々とした日本語で話されました。目を閉じて聞いていますと、外国の方とは思えないほど流暢でした。

百日回峯行などの修行

をおさめ、故郷のインドに帰られました。お国は暑いところで、最低温度が7度、最高温度は49度だそうです。住職のかたわら、「パンニヤ・メツタ子供の家」の園長でもあり、貧しい子どもたちの面倒をみながらの生活を送っておられます。

本当に意志の強い、偉い人だと感心しました。講話では最後に、声を一段と高くして「日本の国に悪質なことが横行するのは慈悲の精神が欠けているからだ」と話されていました。本当にその通りだと思えます。